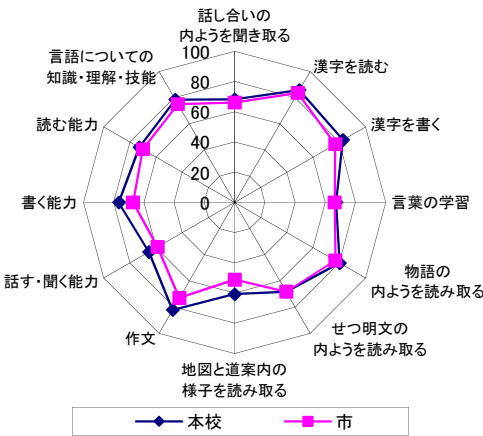


宇都宮市立昭和小学校 第4学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞き取る	68.3	66.1
	漢字を読む	85.7	83.5
	漢字を書く	82.7	76.9
	言葉の学習	67.3	66.2
	物語の内ようを読み取る	80.4	77.0
	せつ明文の内ようを読み取る	68.3	68.3
	地図と道案内の様子を読み取る	60.7	51.2
	作文	82.1	73.1
観点別	話す・聞く能力	65.5	58.9
	書く能力	76.7	67.2
	読む能力	72.8	70.2
	言語についての知識・理解・技能	78.5	75.1



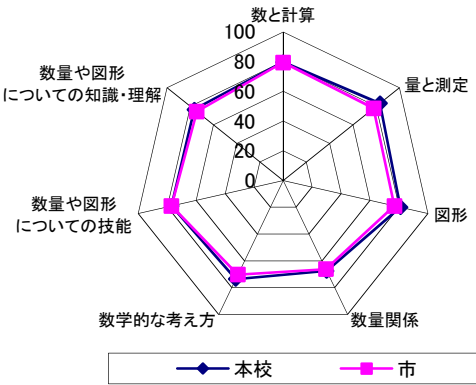
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞き取る	・平均正答率は約68%で、市の平均は上回っているが、昨年度に比べ正答率が低い。これは、問題傾向が変わったことと市の平均も低いので内容の難易度にも関係していると思われる。 ・出題のねらいから見ると話し合いの中心点に気がつけていくことはできても共通点に気がつけて聞いたり、共通点を聞き取り、話したりすることができていないことがわかる。	・今後もスピーチの機会や話し合いの場면을意図的に増やし、自分の意見をしっかりと伝えられるようにするとともに、相手の話をしっかりと聞こうとする態度を育てる。 ・相手の言いたい事は何かを意識して聞くとともに、話し合いの工夫の共通点にも関心を持ち意識して聞くようにし、考えながら聞くことができるようにする。
漢字	・平均正答率は読むが約86%、書くが約83%で、どちらも市の平均は上回っており、身に付いてきていると言える。 ・出題のねらいから見ると、第3・4学年配当漢字を読むことや第3学年配当漢字を書くことは全体的にはできているが、問題では「平等」の読みのみ正答率が低いことがわかる。	・4学年で学習した漢字とともに、3学年までに学習した漢字についても復習を行い、定着を図る。 ・読書や日記の励行や辞書の活用などにより、漢字に触れる機会を増やし、学習した漢字を使って文章を書こうとする意識と習慣をつける。
言葉の学習	・平均正答率は約67%で、市の平均は上回っているが昨年度に比べ正答率が低い。市の平均も低いので内容の難易度にも関係していると思われる。 ・出題のねらいから見ると文の構成や漢字のいろいろな読みはある程度理解されていると思われるが、故事成語の使い方や漢字辞典の使い方の理解については正答率が低い。	・故事成語の使い方や漢字辞典の使い方については、使う機会をこれからもできるだけ多くし定着を図る。 ・連体修飾語については、朝の学習などで計画的に取り上げ復習し定着を図る。
物語の内ようを読み取る	・平均正答率は約80%で、市の平均も上回っており、身に付いていると言える。 ・設問別に見てもほとんど問題なくできているが、気持ちの変化を読み取る問題の正答率が市の平均を下回っていて低い。	・文脈に即して登場人物の気持ちの変化を読み取ったり、場面の移り変わりによる変化を考えたりする学習を意図的に行い、読解力を伸ばしていく。 ・今後も朝の読書を奨励し、音読や読書活動を積極的に取り入れて、本に親しむ機会を増やし、さらに読解力が高まるようにする。
せつ明文の内ようを読み取る	・平均正答率は約68%で、市の平均と同じであるが、昨年度に比べ正答率が低い。これは、問題傾向が変わったことと市の平均も低いので内容の難易度にも関係していると思われる。 ・設問別に見ると、文章の要点に注意して読み取ることではできても、段落の要点に注意して読み取ったり、細かい点に注意して文章を読み取ったりすることができていないことがわかる。	・今後も説明文を読む機会を増やすとともに、接続語に注意して段落と段落の関係をとらえたり、段落の要旨をとらえたりする学習を意図的に行い段落の役割についても理解を深めていく。
地図と道案内の様子を読み取る	・平均正答率は約61%で市の平均は上回っているが、初めての設問の形であるためと難易度の関係と思われるが、正答率が低い。 ・設問別に見ると、地図を読み取ったうえで、適切な言葉づかいで話すことができるの方が正答率が低いことがわかる。	・情報を読み取れても、それを他の人に説明する機会が少ないのが現状なので、グループ学習などの話し合いの形として、各々が異なる情報を持っているグループを意図的に作り、自分の調べた情報を班のみんなに説明して伝えるなどの機会を数多く取り入れ表現力を高めていく。
作文	・平均正答率は約82%で市の平均も上回っており、身に付いていると言える。 ・設問が、決められた長さで、2段落に分けて書くものであり、昨年度までの手紙文とは傾向が違うので比べることはできないが正答率としては低くなっている。	・今後もいろいろな文章の書き方について理解させ、条件にそって書けるようにする。 ・日常の学習活動の中でも自分の考えや感想などを文章で表現する機会を増やし、継続的に文章を書く習慣を身に付けさせ、書く力を高めていく。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	79.6	79.4
	量と測定	83.3	77.9
	図形	81.0	76.8
	数量関係	67.6	66.2
観点別	数学的な考え方	73.7	70.2
	数量や図形についての技能	77.0	77.1
	数量や図形についての知識・理解	76.6	74.4



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均正答率は約80%で市の平均とほぼ同じである。昨年度よりだいぶ下回っているが問題の傾向の違いと思える。 ・設問別に見ると「3けた×2けた＝5けた」と「小数第二位＋小数第二位」の計算と「分数と小数」の正答率が市の正答率を下回っており、他の設問と比べても低い。	・個人差が大きい領域なので、既習内容がしっかり身に付くよう定期的に復習の時間を取り、定着を図る。 ・「3けた×2けた＝5けた」と「小数第二位＋小数第二位」の計算と「分数と小数」については特に重点的に復習し、苦手な児童には個別に支援していき理解につなげたい。
量と測定	・平均正答率は約83%で市の平均を上回っており、よく身に付いていると言える。昨年度よりは下回っているが問題の傾向の違いと思える。 ・設問別に見ると「長方形の面積を求める」問題の正答率が約93%と高くとてもよく理解されていた。「分度器の中に示された角の大きさ」については、約79%で他の設問より低い。	・ここも個人差が大きい領域なので、既習内容がしっかり身に付くよう定期的に復習の時間を取り、定着を図る。 ・「分度器の中に示された角の大きさ」については特に重点的に復習し、使い方を含め苦手な児童には個別に支援していき理解につなげたい。
図形	・平均正答率は約81%で市の平均を上回っており、よく身に付いていると言える。昨年度より大きく下回っているが問題の傾向の違いと思える。 ・設問別に見ると「球の半径から、球が入る箱の辺の長さを求める」問題は、正答率が約60%と他の設問に比べて低い。	・問題が、「円と球・三角形」に関する問題3題のみだったので、「四角形」や「立体」などについても復習し、定着を図る。 ・「球の半径から、球が入る箱の辺の長さを求める」問題は、重点的に復習し、理解につなげたい。
数量関係	・平均正答率は、市の平均を上回っているもの約68%と他の領域と比べても低い。市の平均も前年度に比べて大きく下回っていることから問題の難易度にも関係すると思える。 ・設問別に見ると「整理のしかた」の(3)の正答率が約43%とすべての設問の中でも一番低い。	・個人差が大きい領域なので、既習内容がしっかり身に付くよう定期的に復習の時間を取り、定着を図る。 ・「整理のしかた」については特に重点的に復習し、苦手な児童には個別に支援していき理解につなげたい。